

第十四章 國家



△アドルフ・ヒットラー

我 わ 鬪 爭

(41)

【縮譯】マイン・カンプ

創造する偉大な力が、民族に基づくといふこと——従つて、國家は常にを措いても、民族の目的を考へねばならぬといふことを明らかにしてゐない。

ユダヤ人カール・マルクスは民族國家の思想からブルジョアシズムの運動は、一九二〇一二二年には早くも、疲弊したブルジョアから、現在の國家に敵対するものとして非難されてゐた。彼らは、國家とはなんであるかについて明確な觀念を缺いてゐたから、當時、國家が實際には存在してゐなかつたのを知らなかつた。

今日、國家については、數個の相違する見方がある。これらの依つてオーストリアはドイツ化されると信じてゐたのを思ひながら、「道徳的」なあらゆる肩を包含してゐるが、それらの見解は明らかに現實を否定してゐる。大體に云つて、これらの國家觀はさざれの三種の集團によつて代表される。これらは、國家を簡單化するが故に、結合させられたるものが、ドイツ語を話すことを覺へるが、ドイツ語を話すやうに現實を否定してゐる。大體に云つて、これらの國家觀は強制されたら、彼はドイツ人化されるであらう。

しかし、オーストリア帝國で、このやうな政策が実施されたら、もしくはこれを話すやうに現實を否定してゐる。大體に云つて、これらの國家觀は強制されたら、彼はドイツ人化されるであらう。

私は、舊オーストリア時代にドイツ派の分子が、政府がオーストリア・スラヴにドイツ語を話させるやうにすれば、それに移植した土地であつた。征服しハ、第三の集團は最も小さい國人の血を導入し、そのために彼等の内部的生活とドイツ國民に対する漠然たる憧憬を現さずするための手段と考へる故にせしめたことは、それ故に大きな災難であった。

人々が同一の國語を話してゐるが故に、上三種の國家觀はいづれも文化並びに人間に等が覺醒しない限り、彼等の世界は死の運命に縛られてゐた。

民族國家の思想からブルジョアシズムの運動は、一九二〇一二二年には早くも、疲弊したブルジョアから、現在の國家に敵対するものとして非難されてゐた。彼らは、國家とはなんであるかについて明確な觀念を缺いてゐたから、當時、國家が實際には存在してゐなかつたのを知らなかつた。

△アドルフ・ヒットラー

△優良なる中古品澤山あり、六百佛

八百五拾佛及九百五拾佛

●交換、修繕は特に便宜を計ります

●各種部分品を

●日本語を話します

●各種部分品を

<div data-b

